

デジタルコンテンツ活用授業 1人1実践への支援

茨城県取手市立野々井中学校 教諭 田鍋文雄※

(*取手市コンピュータ教育クラブ @cect 研究部長)

キーワード：ネットワーク配信コンテンツ活用推進事業、授業改善、PCを活用した授業

1. ネットワーク配信コンテンツ活用推進事業への参加

取手市では、以前からPCを活用した学習指導の推進に、教育委員会が組織する「コンピュータ教育推進委員会(以下、推進委員)」を中心として取り組んできた。この組織は、市内の公立小中学校より選出された委員によって組織され、主にPC室のPCを活用した授業改善について研究している。

平成10年に市内全ての小中学校がインターネットに接続されたことにより、PCの活用はインターネット中心へと移行し、また活用の場面も主に「総合的な学習」の時間へと移っていった。一方で、市内では古くから「CAIの活用による学習指導」も行われていたため、当然のことながら教科の学習へのさらなる活用が、特に中学校で臨まれるようになった。そこで、教育委員会と推進委員会が協議の上、公募されていた文部科学省「ネットワーク配信コンテンツ活用推進事業」への参加を申請した結果、採択された。取手市コンピュータ教育クラブは、以前より教育委員会・推進委員会の活動を支援してきているので、この事業推進への支援・協力を行うこととした。また、財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)が実施している「学校企画」へも応募し、平成15、16年度と連続採択されたので、上記を補完する形で学校現場でのIT活用実践を推進してきた。

2. 行政と現場の温度差解消のために

例年、文部科学省が実施する調査では「100%近く」の教員が「コンピュータを使って指導できる」と回答しているものの、現場ではそれほどの感触はない。そこで、@cectでは、市内小中学校全教員を対象とした「学校におけるPC活用についての実態調査」をWeb上で実施し、コンテンツを活用した授業実施への可能性を調査したところ、約200名より回答を得た。(調査期間H16.8.23~H16.10.31)

質 問	Yes	No
あなたは校務の処理でPCを使っていますか？	86.9%	13.1%
あなたは授業の準備にPCを使っていますか？	62.0%	38.0%
あなたは学習指導にPCを使ったことがありますか？	77.8%	22.2%
あなたはコンテンツを使って授業をしたことがありますか？	43.5%	56.5%
あなたは教科の学習にコンテンツを使ってみたいと思いますか？	85.1%	14.9%
普通教室でPCを活用した授業をやってみたいと思いますか？	81.5%	18.5%
あなたには学校で自分が使いたいときにいつでも使えるPCがありますか？	55.7%	44.3%

市内教員の学習指導におけるPC活用経験がある割合は非常に高かった一方、コンテンツを活用した教科指導経験は少なかった。しかし、確実にニーズは高まっていることが明らかになった。コンテンツを活用した授業の普及が頭打ちになっているのは、「(市内公立学校においては)行政が統一して整備すべき教室環境」の不足と「コンテンツを活用した授業の実践についての情報」を教員があまり知らないことであると考え、@cectでは、特に「普通教室でのPCを活用した授業のための環境整備」を主な支援活動とすることとし、学校企画に応募し採択された。

3. 配信コンテンツ活用のためのネットワークおよびPC環境整備のための支援活動

市内小中学校での標準的なPC配置教室はPC教室のみであり、インターネット接続もPC室に限定されている。普通教室配置のPC不足は事業推進にとっては死活問題である。そこで、NPOであるインシュタイン・プロジェクトより寄贈されたPCを整備して希望する小中学校に寄贈し、さらに校内LANの設備が不十分な学校については、希望に応じてネットワーク機材を寄贈すると同時に配線工事を実施した。ネットワーク環境整備を希望校の教員と協力して実施した。また、コンテンツ配信を受けるためのPC設定には若干の知識を必要とするため、コンテンツ配信のためのPC設定を、市内各小中学校を巡回しながら、簡単なレクチャーをすると同時に進めた。

この作業によって、わずかではあるが、小中学校教員の意識が高まり、PCやネットワークに対するスキルが向上したように思われる。

4. コンテンツ選定のための支援活動

コンテンツを登録する業者との連絡のもと、いくつかの業者によるコンテンツについての説明会を実施した。コンテンツ選定においては、「その全体を把握し、実際の教科指導への活用を想定する」ことが不可欠である。しかしながら、配信コンテンツの試用には時間の制約があったため、CD-ROM を用いた選定がもっとも効率的であった。また、制作者とのコミュニケーションが可能であるため、授業者のニーズにあったコンテンツの改良等を依頼することもできた。



5. 配信コンテンツを活用した授業改善への支援

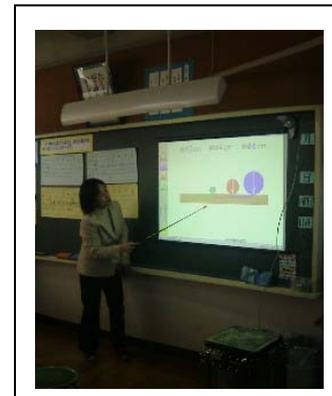
コンテンツ活用の授業実践は、「経験者であれば難しいことではない」が「未経験者にとっては敷居が高い」イメージがある。そこで、例年8月に教育委員会が実施している「PC を活用した授業改善に関する研修会」に、学力向上フロンティア事業実施校で日常的にコンテンツを活用して授業を実施している教員を招聘し、授業改善のポイントとその効果について講演していただきつつ、2 学期以降の授業でのコンテンツ活用案について一緒に研修をすすめた。



秋に実施された公開授業研究会においては、PC をほとんど使ったことがない教員が、普通教室において、黒板に設置されたマグネットスクリーンにコンテンツを投影しつつ算数の授業を展開していた。ここに参加した教員もまた、コンテンツを活用した授業改善に向けて意欲的に研究協議に参加していた。

取手市教育委員会では「コンテンツを活用した授業は、校内のみでなく市内全教員に原則公開とする」こととし、@cect は必要とするインタラクティブ・ボードをはじめとする機材を貸与するなどの形で支援することとした。

また、教育委員会が集約している「コンテンツ活用1人1実践」で報告された事例の指導案を掲示板で公開し、実践事例の蓄積をすすめることとしている。また、そこにコンテンツについての評価を併記し、今後のコンテンツ選定の参考とするようにしてある。事例集は、教育委員会により冊子にまとめられた。



6. 今後の支援活動について

ネットワーク配信コンテンツ活用推進事業実践1年目では、市内教員の70%以上が、1回以上のコンテンツ活用授業を展開した戸の報告がある。一方で、未だにそこに踏み出すことができない教員もいる。その理由の主なものは「コンテンツを使わなくても授業は可能」ということである。

一方で、教育委員会は本年度3月に合併した旧藤代町の学校を含む全ての公立小中学校及び教育機関内のネットワーク整備を、また市情報管理課は教育用に特化したネットワークとポータルサイトの年内整備完了と稼働開始を目標として動き始めている。多額の投資を受け、学校での有効活用大いに望まれ、保護者をはじめとする市民の間にも情報は広まっている。各学校は「コンテンツの活用」を「基礎基本定着のために有効な学習指導の手法」としてとらえはじめ、これを研究テーマとしている学校もでてきた。

取手市は、現在では人口動向が頭打ちから減少に転じつつある、どこにでもある普通の自治体である。つまり、取手市の実践による成果が明らかになれば全国の多くの自治体に対する刺激にもなるであろうと考える。市内各学校の児童生徒数も減少傾向にあり、余裕教室も増えつつある。自治体の予算は、教育予算を含めて縮小傾向にある。@cect では、今後余裕教室へのネットワーク設備とPC配置などのハード面での支援と、実践事例の紹介・コンテンツの改良などソフト面の支援で、ネットワークは威信コンテンツ活用推進事業への支援を継続したいと考えている。

本年度末のネットワーク配信コンテンツ活用推進事業に関する報告会においては、1人1実践を100%達成したという報告ができるよう、さらに活動を進めていきたい。取手市の小中学校の学習活動で、ミレニアムプロジェクトで整備された教室環境が、日々有効活用される日々を目指して。